

記者発表資料
平成22年9月 日

所 属	教育委員会事務局	文化振興課	課長 三輪、係長 中井
	都市計画部	都市施設課	課長 清水、係長 豊田
連絡先	0584-81-4111	文化振興課	内線781、785
		都市施設課	内線671、678

「国史跡 昼飯大塚古墳」保存整備事業について

1 現状と目的

国史跡である岐阜県最大の前方後円墳「昼飯大塚古墳（大垣市昼飯町大塚）」は、これまでの発掘調査を踏まえ、平成21年度より4年計画で保存整備事業に着手している。現在は2年目となる。

本事業は約1600年前に築かれて今に残る古墳を、現代技術により削られた墳丘を修復し、墳丘の一部を葺石や埴輪で復元するなど、古墳の再生と新たな歴史公園の創出を目指している。平成25年春の完成予定である。

2 平成22年度の事業

(1) 後円部・前方部の墳丘整備 A=約4,600㎡

墳丘整備は昨年度前方部から着手し、墳丘の強度、密度、含水比を測定した上で、盛土で修復している。これまでに前方部の隅角の盛土を終え、今年度は後円部にかけて整備を行う予定である。現在後円部の土質試験を終えており、今月から盛土による修景整備を行う。

またこれまでの土木工学的試験により、古墳の盛土は周辺に広がる土を利用し、砂や粘土を混ぜながら、約15～40cmの嵩上げを繰り返し、人が踏み固める程度であったことが判明している<詳しくは、次ページの京都大学防災研究所三村衛准教授のコメント参照>。

*平成21年度：前方部の整備 A=約700㎡

*平成23年度：後円部（葺石・埴輪列）および周壕の復元 A=約2,400㎡

*平成24年度：広場および修景整備 A=約4,974㎡

全体整備面積 A=約12,674㎡

(2) 古墳の活用事業

今年国史跡指定（平成12年9月6日）10周年にあたるため、それを記念したイベントを市民協働で企画している。第1部として現在の昼飯大塚古墳の整備状況の報告を行い、第2部で西美濃6市町にある古墳について、それぞれの地域で取り組んで

いる調査担当者をパネラーに迎えて行う。

- 1) 名称 西美濃の古墳時代探訪
- 2) とき 平成22年9月25日(土) 午後1時30分～4時
- 3) 場所 スイトピアセンター・スイトピアホール
- 4) 参加 無料(但し、資料代300円が必要)
- 5) 内容 第1部 保存整備の概要(中間報告)
①文化振興課 ②都市施設課
第2部 シンポジウム「西美濃の古墳時代探訪」

司会) 浅野準一郎(まちづくり工房大垣 歴史観光グループ)
コメンテーター) 中司照世(昼飯大塚古墳実施設計アドバイザー
・元福井県教育庁埋蔵文化財センター所長)

パネラー 竹谷勝也(大野町教育委員会)
中島和哉(養老町教育委員会)
原田義久(垂井町教育委員会)
日置 智(海津市教育委員会)
横幕大祐(池田町教育委員会)
中井正幸(大垣市教育委員会)

(3) 現地の一般公開

記念イベントにあわせて現地を一般公開する

- 1) とき 平成22年9月25日(土)と26日(日) 午前10時～午後3時
*両日とも午前10時から、担当者による説明会を実施する
- 2) 場所 昼飯大塚古墳現地
(現地には駐車場がないため、近くの赤坂総合センターを利用)
- 3) 申込 不要

◎奈良県高松塚古墳等で工学的試験を実施し、古墳の盛土工法に詳しい三村 衛准教授のコメント

全国的にみても全長が150mとなるような巨大な前方後円墳が、どのように土を積み上げ完成に至ったのかいまだわからないことが多い。土木工学的な調査研究を行った古墳は全国的にも少なく、昼飯大塚古墳は前方部、後円部の墳丘断面が広く露呈していたために、非破壊の土木工学的試験には好都合であった。

試験の結果、盛土一層の単位がわずか15～40cmで、その嵩上げの繰り返しで築かれたことがわかり、盛土の強度も人の足で踏み固める程度のものであったこともわかったことは重要である。今後古墳研究がこのような築造技術と重ね合わせながら行わなければならないことを昼飯大塚古墳は教えてくれる。



前方部の表土を剥ぎが終了した
段階

<平成 21 年 11 月撮影>



崩れていた前方部を盛土して
修復した段階

<平成 22 年 2 月撮影>



前方部を修復し、平成 21 年
度の事業を終了した段階

<平成 22 年 2 月>



▲後円部の壁面を上空から見る
3段築成のうち、2段目（中段）が大きく
抉られているのがわかる。



▲後円部の2段目盛土の断面と3段目の葺石が見える<平成22年8月撮影>



▲針貫入試験で土の強度を調べる



▲土の密度や水分を測定する